

〔類聚名義抄夕〕通夕カヨモス 竟夜カヨス 通夜 達夜

〔書言字考節用集二〕時候終夜ヨモスガラ 宵並同 通夕通昔通 盡宵又云 徹宵同 連宵白文 終夜シツヤ

〔日本書紀十二〕八十七年德 正月仲皇子不知太子仲 不在而焚太子宮通夜火不滅

〔日本書紀十四〕元年三月童女君者本是采女天皇與一夜而脈遂生女子天皇疑不養略 大連部目

曰中 臣聞易產腹者以禪觸體即便懷脈况與終宵而妄生疑也

〔日本書紀十九〕十四年十月己酉百濟王子餘昌略 註 悉發國中兵向高麗國中 餘昌乃大驚打鼓相

應通夜固守ヨモスガラ

〔古今和歌集十一〕題玄らす よみ人玄らす

戀玄ねとするわざならしむば玉のよるはすがらに夢に見えつ

〔後撰和歌集九〕あつよしのみこまうできたりけれどあはずしてかへして又のあしたにつかは

しける 桂のみこ

から衣きてかへりにしさよすがら哀とおもふをうらむらんはた

〔左京大夫顯輔卿集〕歸鴈 契りけんほどやすぎぬといそぐらんよるもすがらにかへる鴈がね